

# 教員養成、保育者養成における歌唱と

## ピアノの融合の試み

—ピアノ初心者用教本比較による考察—

Versuch der gleichzeitigen Ausbildung im Singen und Selbstklavierspielen für Lehrer  
—Eine Betrachtung durch den Vergleich von Klavierschulen—

佐 藤 千 佳  
SATO Chika

[Zusammenfassung] Bei der Lehrerausbildung sollen die Studenten das gleichzeitige Singen und Selbstklavierspielen erlernen. Wegen der Schwierigkeiten bei der Erlernung des Klavierspiels wird der Unterricht in der Liedbegleitung oft bei Anfängern vernachlässigt, das heißt, dass der Student das gleichzeitige Singen und Selbstklavierspielen oft nicht genug übt und dadurch nicht die gleichzeitige Konzentration auf das Singen und Klavierspielen erlernt. Wegen dieser Schwierigkeiten unterrichten einige Pädagogen die Studenten zuerst nur im Klavierspiel und dann später zusätzlich in der Liedbegleitung. Nach meiner Auffassung sollte der Professor eine Klavierschule mit Liedertexten verwenden, weil der Student dadurch die Liedbegleitung und das Klavierspiel gleichzeitig erlernen kann.

Ich habe einige Klavierschulen mit Liedertexten ausgewählt und in einem Vergleich die Möglichkeit der gleichzeitigen Einführung in das Klavierspiel und die Liedbegleitung betrachtet. Und es wurde nachgewiesen, dass man das Ziel Studenten gleichzeitig im Singen und Selbstklavierspielen bei der Lehrerausbildung gut erreichen kann.

### 1. はじめに

教員養成、保育者養成においては、歌唱とピアノ伴奏を、一人で同時に行うことが求められている。学習者は、歌唱以外にピアノの技術が要求され、特にそれはピアノ初心者にとって高い障害となっている。

このピアノという楽器は、演奏会においてソロ演奏以外に、協奏曲、室内楽、伴奏など多彩な役割を持つが、一般的にはソロ演奏か伴奏と大別される。伴奏する際しばしば問題となるのが、責任の所在である。伴奏者という言葉は、主人に仕える立場といった印象を与えがちだ。しかし、著名な伴奏家のジェラルド・ムーアが著書の中で「声楽家と伴奏者の協力は五分五分の関係」<sup>1)</sup>と述べ、さらに「声楽家と伴奏家は、芸術的にいって、同等の共同者」<sup>2)</sup>としている通り、実際のところは主従関係があるわけではなく、さらに責任もどちらか一方にあるものではない。

作品そのものにおいても、ピアノは「歌の不可欠な一部」<sup>3)</sup>である。「どんなに立派な作曲家でも、第二の思いつきとして伴奏を作ることはできない。伴奏というものは音楽全体の構造の基礎をなすものだからである」<sup>4)</sup>とある通り、歌唱と伴奏というものは分離しているものではなく、融合して1つの芸術作品となっている。よって演奏家には、自分の担当楽器以外も含め、楽曲全

体を把握したうえで、自身の役割を認識して演奏を行うことが求められる。

これは、いわゆるクラシック音楽のみならず、子どもが歌う童謡、唱歌においても当てはまる事柄である。しかるに弾き歌い学習者は、歌唱とピアノが分離せず融合して1つの作品となるよう心がけることが必要とされる。

しかしながら、教員養成、保育者養成の際の弾き歌いにおいては、歌唱とピアノが分離してしまっているのが現状である。つまり「弾き歌いでは、伴奏を弾くことにとらわれ、歌の意識が希薄になりがちである」<sup>5)</sup>。特にピアノ初心者に対し、教育者は、まずはピアノ演奏のレベルを上げてから歌唱を導入するケースが多い。その後、ピアノ実技がある程度のレベルに達しても、学習者はピアノ演奏に必死なあまり、歌唱を置き去りにしてしまう傾向が見られる。教育法に関しても「教員養成の弾きうたいの学習は、ピアノの技能学習と別に行われることが多く、各々違う教材によって進められていた」<sup>6)</sup>。

しかしピアノ初心者が導入段階で、歌唱とピアノを同時演奏する学習習慣を取り入れられれば、歌唱とピアノとが分離していない、つまり融合している演奏につながり、それは大変有意義なことではないだろうか。

## 2. 先行研究と本論文の目的

### (1) 先行研究の検討

教員養成、保育者養成の際の弾き歌いに関する先行研究としては、使用している教本の分析を通してピアノ技術の向上、もしくはその後の弾き歌いの可能性を考察したもの、複数の教本の比較考察、指導法の考察などがあった。

歌唱とピアノの融合を提唱している箇所が見受けられた研究としては、梶田京子が教材として Peter Heilbut の "Die Lieder Fibel" Hug&Co. (1961) Zürich を紹介し、弾き歌いとピアノ技術の同時学習の可能性を示唆した。<sup>7)</sup> また、他にも初期段階での歌唱とピアノの同時導入の必要性を示唆したものもあった。

しかし、歌唱とピアノを同時導入する目的のための具体的な研究考察、そしてピアノ初心者用教本を比較考察した研究は見当たらなかった。

ピアノ教本が昔に比べ数多ある昨今、歌唱とピアノの同時導入の可能性は、以前に比べ広がっているはずである。この可能性についてはもっと深く研究考察されるべきではないだろうか。

### (2) 本論文の目的

上記の理由により、本論文では複数の歌詞付きのピアノ初心者用教本を比較し、その導入方法と傾向、そして初期段階での歌唱とピアノの同時導入の可能性を探り、考察する。

### (3) 研究の方法

教員養成、保育者養成における弾き歌いで、ピアノ初心者が導入時に躓きやすい点として、大きく次の2点があげられる。それは、①ヘ音記号に対する拒否感。②歌唱とピアノの同時進行である。

なお、加勢り子によれば、教本は次の4つの傾向に分けられるとされている。つまり、それ

らは、①技術の習得を重視したもの。②聞くことを主体に考えられたもの。③読譜力育成に力を入れたもの。④歌と共に学習するもの<sup>8)</sup>である。

これらを踏まえ、本論文では、初期段階からへ音記号が使用されていること、そして加勢の分析④に当たる、歌詞付きの教材が含まれている教本であることを教本選択の条件とした。そこで、全日本ピアノ指導者協会の講師登録用紙に記載されている主な導入教本の中から、以下の日本の教本2シリーズ、そして筆者が実際に弾き歌い目的で使用した経験のある教本1シリーズを選択し、これら3シリーズ(全13冊)を比較分析することにする。

①田丸信明『ぴあのどリーむ 1-6』学習研究社、1993年

②高橋正夫『新版 みんなのオルガン・ピアノの本 1-4』ヤマハミュージックメディア、2015年

③橋本晃一『ピアノひけるよ! ジュニア 1-3』ドレミ楽譜出版社、1998年

音名、調名は一部を除き、すべてドイツ語表記とした。なお、弾き歌い可能な楽曲に絞ったため、すべての楽曲には言及しない

### 3. 教本分析

#### (1) ピアノ演奏技術に絞った段階分け

今回取り上げたすべての教本が、ほぼ同じような段階を踏んだ構成となっていた。そこで本論文では、演奏技術の進捗により大きく3段階に分けて考察した。

##### ①第1段階

第1段階では、大譜表を用いて中央c<sup>1</sup>音を左右共々1の指で固定して、徐々に音符の範囲を増やしていく、固定ポジションによる導入方法が取り入れられている。この段階で使用される音符は計9個で、楽曲は主に片手奏、単旋律の左右交互奏に編曲されている。

この導入方法は、バイエルやメトードローズなどのいわゆる定番教則本とは、大きく異なる。これら定番教則本では楽曲は、高音部譜表を用いて、c<sup>2</sup>音を右手1の指で固定したポジションで導入されている。しかしト音記号にまず慣れさせて、しばらくしてからへ音記号を導入するため、へ音記号における読譜に慣れるのに時間がかかってしまう。

これに対し、今回取り上げた教本のように、大譜表を用いて中央c<sup>1</sup>音を起点とした導入方法であれば、初期段階からへ音記号を使用するため、読譜に対する負担が比較的少なく学習できると考えられる。ゆえに、これらの教本を使用すれば、上記にあげた、教員養成、保育者養成の弾き歌いにおけるピアノ初心者へのへ音記号に対する拒否感は、軽減されると思われる。

さらに、すべての楽曲において旋律と歌唱が一致しており、使用する音符も9個と少ないため、弾き歌い導入教材として優れているといえよう。

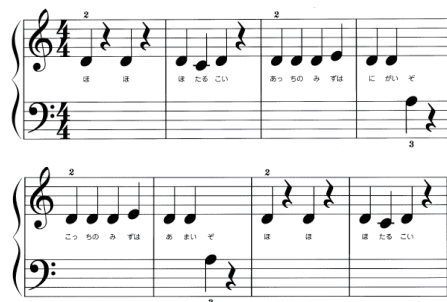
以下、各教本の第1段階最後に掲載されている、著名な歌詞付きの楽曲を譜例としてあげる。

譜例1『ぴあのどリーむ3巻』より「ハッピー バースデー」(p.9)



譜例1は、単旋律の左右交互奏の楽曲である。この楽曲は、主に左手が旋律を担っているため、ヘ音記号の読譜練習に適している。ポジション移動が無いにもかかわらず、ほぼすべての小節で指番号が多く記載されており、学習者が音符ではなく指番号を見て演奏してしまう可能性があるため、指導には注意が必要であると思われる。使用されている音価は、四分音符と二分音符のみで、著名な楽曲であるため初心者は安心して弾き歌いできるであろう。

譜例2『新版 みんなのオルガン・ピアノの本1巻』より「ほたる」(pp.22-23)



譜例2も単旋律の左右交互奏の楽曲であるが、主に右手が旋律を担っている。使用される音価は四分音符と四分休符のみで、著名な楽曲であるため初心者は負担なく弾き歌いできる。譜例1同様、前出同音の指番号の記載が見受けられるが、頻度は比較的少なくなっている。

譜例3『ピアノひけるよ! ジュニア2』より「たなばたさま」(p.19)



譜例 3 も単旋律の左右交互奏の、左右のバランスのとれた楽曲である。演奏していない側には休符が使用されており、より正確に記譜されている。使用されている音価が四分音符、二分音符、八分音符、全休符、二分休符と譜例 1,2 と比較して多く、指番号も必要最低限にとどめてあるのが特徴であろう。

## ②第 2 段階

第 2 段階は、左手 c-g 音、右手 c<sup>1</sup>-g<sup>1</sup> 音の固定ポジションによる楽曲で構成されている。これらは主に、右手が旋律、左手が伴奏による両手の C-Dur の楽曲として編曲されている。

第 1 段階同様、旋律と歌唱が一致した固定ポジションの楽曲で、使用される音符は計 10 個であるので、教員養成、保育者養成におけるピアノ初心者でも、ピアノ演奏にそれほどとらわれることなく、弾き歌い奏が可能である。

また教材により、左手の旋律のみの楽曲やユニゾンの楽曲もあり（例えば、『ピアノひけるよ！ジュニア 2 巻』より「かつこう」(p.25)、「ぶんぶんぶん」(p.29)、「ちょうちょう」(p.31) など）、第 1 段階よりさらに、ピアノ演奏技術や読譜能力を高めることができる。

以下、各教本の第 2 段階最後に掲載されている、著名な歌詞付きの楽曲を譜例としてあげる。

譜例 4 『びあのだりーむ 3 巻』より「ぶん ぶん ぶん」(p.25)

The musical score is written for piano in 4/4 time, C major. It consists of three systems of music. The first system has four measures: the first measure has a treble clef with a half note G4 and a bass clef with a half note C4; the second measure has a treble clef with a half note A4 and a bass clef with a half note C4; the third measure has a treble clef with a half note B4 and a bass clef with a half note C4; the fourth measure has a treble clef with a half note C5 and a bass clef with a half note C4. The second system also has four measures with similar patterns. The third system has four measures: the first measure has a treble clef with a half note D5 and a bass clef with a half note C4; the second measure has a treble clef with a half note E5 and a bass clef with a half note C4; the third measure has a treble clef with a half note F5 and a bass clef with a half note C4; the fourth measure has a treble clef with a half note G5 and a bass clef with a half note C4. The lyrics are written below the notes: 'ぶん ぶん ぶん' in the first system, 'は ち が と ぶ' in the second system, and 'お い け の ま わ り に の ば ら が さ い た よ' in the third system.

譜例 4 は、右手が旋律、左手が伴奏の両手奏の楽曲である。左手の伴奏のパターンは 2 種類のみであり、使用されている音価が少ないので、初心者でも取り組みやすい。第 1 段階と比較して減少したが、前出同音の指番号の記載がやや多い点の特徴としてあげられる。

譜例5『新版 みんなのオルガン・ピアノの本1巻』より「こどものマーチ」(p.35)



譜例5も両手奏の楽曲であるが、左手は1音のみ部分的に演奏され、負担なく弾き歌い奏ができる。1小節目2、3拍目に見られるように、指番号の記載がやや多く見受けられる。なお、この教本では、第2段階の著名な楽曲はこの曲のみであった。またタイトルは『小学生のおんがく1 指導書伴奏編』によると「こいぬのマーチ」とされているものである。また、歌詞も出版社が作詞したものであるため、この楽曲を使う際はこの点注意が必要とされよう。

譜例6『ピアノひけるよ!ジュニア2巻』より「ジングル・ベル」(p.43)



譜例6は、左手伴奏が単音3音のみによる両手奏の楽曲である。指番号の記載も多すぎず適切で、他の教本と比較し、より複雑なリズムが見受けられるのが特徴であろう。スラーの記載もあり、より高度な知識とテクニックが身につけられる。

## ③第3段階

第3段階では、前段階の復習も兼ねながら、教本によっては第2段階とは別の固定ポジションを経て、指広げ、指寄せ（指ちぢめ）、同音での指変え、指くぐり、指越えなどの指移動テクニックが出てくる。これら5つの指移動テクニックがすべて出そろうまで、もしくはその段階までで著名な歌詞付きの楽曲が出そろうまでを、本論文では第3段階とした。掲載順に分析を進めたため、途中、前段階のポジションの楽曲もあったが、これらは復習を兼ねていると捉えて第3段階に含むことにした。

指移動テクニックができるようになれば、ピアノ演奏技術はさらに向上し、演奏表現の幅も広がる。また、前段階同様、右手の旋律が歌唱と一致しているため、右手旋律と歌唱が一致しない楽曲と比較して、初心者は負担なく弾き歌い奏の学習ができる。

なお、第3段階までを導入とした根拠としては、指移動テクニックが出てくると、これらの教本から歌詞付きの楽曲が見当たらなくなることからである。教本の編集者もここまでが導入段階とみなしていると推察される。これらが滞りなく演奏できるようになれば、導入段階は脱したといえよう。

以下、各教本の第3段階最後に掲載されている、著名な歌詞付きの楽曲をあげる。ただし、『ぴあのどりーむ』においては該当する楽曲が無いため省略する。

譜例7 『新版 みんなのオルガン・ピアノの本2巻』より「つきのひかり」(pp.50-51)

しつとりと

*p* つきのひかり うつくしく

なみのうえに ゆらゆらと

*mp* しずかな よる ふけてゆく

*p* つきのひかり うつくしく



譜例7は、使用される音価も多くなり、強弱記号もあり、移動ポジションもあるため、ピアノ演奏技術向上には良い教材と思われる。指番号の記載については例えば1小節目、さらに続く小節の左手の指番号などのように、ポジション移動が無い箇所でも見受けられる。また、歌詞は出版社による独自の歌詞である。

譜例8『ピアノひけるよ! ジュニア3巻』より「やまのおんがくか」(p.33)

アレグレット (すこしはやく)

譜例8は、さらにレベルが高くなり、記号も多くみられる。指番号は、9、10小節目のように、移動が行われる箇所のみ記載され、学習者は音符の読譜力を向上させることができるであろう。また著名な楽曲であるため、ピアノ演奏により集中できると考えられる。

## (2) 歌詞付きの楽曲の割合

ここまで、各段階の最後に掲載されている、著名な歌詞付きの楽曲に絞って検討してきたが、教本全体の歌詞付きの楽曲の割合は次のようになっている。

表1『ぴあのどリーむ』の構成と歌詞付きの楽曲の割合<sup>9)</sup>

段階	ポジション (音域)	歌詞付きの 楽曲数 / 総曲数	備考: 新たな音符、記号等
第1段階	左 f-c <sup>1</sup> 、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	31/48	片手奏、左右交互奏、一部両手奏、四分音符、二分音符、付点二分音符、四分休符、二分休符、4/4、3/4
第2段階	左 c-g、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	3/11	両手奏、全音符、全休符、#、b、スタッカート、スラー、リピート、フォルテ、ピアノ
第3段階	他固定ポジション 指移動テクニック	0/36	八分音符、付点四分音符、八分休符、加線の音符、3/8、6/8、2/4、弱起、C-Dur、G-Dur、メゾフォルテ、メゾピアノ、速度記号、ナチュラル、cresc.、dim.、タイ、カッコつきリピート、rit.、ペダル記号



表2 『新版・みんなのオルガン・ピアノの本』の構成と歌詞付きの楽曲の割合<sup>10)</sup>

段階	ポジション (音域)	歌詞付きの楽曲数 / 総曲数	備考：新たな音符、記号等
第1段階	左 f-c <sup>1</sup> 、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	12/16	四分音符、二分音符、四分休符、4/4、3/4、2/4、D.C.、Fine、リピート、フォルテ、ピアノ
第2段階	左 c-g、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	4/6	全音符、付点二分音符、全休符、スラー
第3段階	他固定ポジション 指移動テクニック	27/42	八分音符、付点四分音符、八分休符、二分休符、加線の音符、弱起、F-Dur、a-Moll、d-Moll、G-Dur、移調示唆、連弾、腕の交差、アクセント、メゾフォルテ、メゾピアノ、#、b、ナチュラル、cresc.、dim、スタッカート、タイ

表3 『ピアノひけるよ！ジュニア』の構成と歌詞付きの楽曲の割合<sup>11)</sup>

段階	ポジション (音域)	歌詞付きの楽曲数 / 総曲数	備考：新たな音符、記号等
第1段階	左 f-c <sup>1</sup> 、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	18/26	四分音符、二分音符、全音符、付点二分音符、八分音符、付点四分音符、全休符、二分休符、四分休符、4/4、3/4、2/4、弱起、リピート、タイ
第2段階	左 c-g、右 c <sup>1</sup> -g <sup>1</sup>	7/13	スラー
第3段階	指移動テクニック	11/19	八分休符、スタッカート、フォルテ、ピアノ、速度記号

以上の表1、2、3から、歌詞付きの楽曲は『びあのだりーむ』では第1段階に、『みんなのオルガン・ピアノの本』は第3段階に集中していることが明らかである。また、『びあのだりーむ』では第3段階における歌詞付きの楽曲は無くなった。『ピアノひけるよ！ジュニア』ではこれらは平均的に分散している。

### (3) 著名な歌詞付きの楽曲

教員養成、保育者養成において、ピアノ初心者がある程度のレベルに達するまで待たず、初期段階からこのような歌詞付きの教材を使用して、弾き歌い指導を行えば、ピアノ演奏技術の向上も望め、歌唱とピアノが同時に学習でき、さらに歌唱とピアノの融合した演奏を目指すことが可能ではないだろうか。その際、誰もが知っている著名な楽曲を用いれば、学習者は歌唱を新たに習得する必要なく、読譜の負担も少なく弾き歌い奏をすることができるであろう。

そこで著名な歌詞付きの楽曲に絞り、前述のピアノ演奏技術に絞った段階に基づいてまとめると、次のようになった。

表4 『びあのだりーむ』における著名な歌詞付きの楽曲

曲名	導入段階 (奏法)	備考
いちばんばし	第1段階 (右手のみ)	楽曲の一部のみ使用。本来のタイトル「一番星みつけた」
はたる	第1段階 (左右交互奏)	本来のタイトル「はたるこい」
メリーさんのひつじ	第1段階 (両手)	リズム相違
10にんのインディアン	第1段階 (左右交互奏)	
ハッピーバースデー	第1段階 (左右交互奏)	
かつこう	第2段階 (両手)	歌詞一部相違
ちょうちょう	第2段階 (両手)	
ぶんぶんぶん	第2段階 (両手)	

表5 『新版 みんなのオルガン・ピアノの本』における著名な歌詞付きの楽曲

曲名	導入段階 (奏法)	備考
おやまのがくたい	第1段階 (左右交互奏)	本来のタイトル「アルプス一万尺」。 出版社による歌詞。楽曲の一部のみ使用。
ほたる	第1段階 (左右交互奏)	本来のタイトル「ほたるこい」
こどものマーチ	第2段階 (両手)	教科書のタイトル「こいぬのマーチ」。 出版社による歌詞
10人のインディアン	第3段階 (左右交互奏)	出版社による歌詞。
ドナルドおじさん	第3段階 (両手)	本来のタイトル「ゆかいなまきば」。出版社による歌詞
ぶんぶんぶん	第3段階 (両手)	
ちょうちょう	第3段階 (両手)	
おうま	第3段階 (両手)	
こいぬ	第3段階 (両手)	本来のタイトル「あわてんぼうのうた」。 出版社による歌詞
むすんでひらいて	第3段階 (両手)	
かつこう	第3段階 (両手)	教科書掲載の作詞者による歌詞ではない
かえるのうた	第3段階 (両手)	本来のタイトル「かえるの合唱」
かわいいおんがくか	第3段階 (両手)	本来のタイトル「山の音楽家」。出版社による歌詞
つきのひかり	第3段階 (両手)	出版社による歌詞

表6 『ピアノひけるよ! ジュニア』における著名な歌詞付きの楽曲

曲名	導入段階 (奏法)	備考
いちばんぼし	第1段階 (左右交互奏)	楽曲の一部のみ使用。歌詞、音一部相違。 本来のタイトル「一番星みつけた」
つきのひかりに	第1段階 (左右交互奏)	楽曲の一部のみ使用。音一部相違。作詞者不明
げんこつやまのたぬきさん	第1段階 (左右交互奏)	リズム相違。
アルプスイちまんじゃく	第1段階 (左右交互奏)	楽曲の一部のみ使用。
きらきらぼし	第1段階 (左右交互奏)	
ゆかいなまきば	第1段階 (左右交互奏)	
バケツのあな	第1段階 (左右交互奏)	
ふしぎなポケット	第1段階 (左右交互奏)	
こぎつね	第1段階 (左右交互奏)	
とんぼのめがね	第1段階 (左右交互奏)	
あかいかわのたにま	第1段階 (左右交互奏)	
1しゅうかん	第1段階 (左右交互奏)	
ロンドンばし	第1段階 (左右交互奏)	
かたつむり	第1段階 (左右交互奏)	
おしょうがつ	第1段階 (左右交互奏)	
まめまき	第1段階 (左右交互奏)	
こいのぼり	第1段階 (左右交互奏)	
たなばたさま	第1段階 (左右交互奏)	
かつこう	第2段階 (左手のみ)	歌詞一部相違
ぶんぶんぶん	第2段階 (両手ユニゾン)	
ちょうちょう	第2段階 (両手ユニゾン)	
あわてんぼうのうた	第2段階 (両手)	楽曲の一部のみ使用。音一部相違
さよなら	第2段階 (両手)	

曲名	導入段階（奏法）	備考
こいぬのマーチ	第2段階（両手）	楽曲の一部のみ使用
ジングル・ベル	第2段階（両手）	
メリーさんのひつじ	第3段階（両手）	歌詞一部相違
むすんでひらいて	第3段階（両手）	
かえるのがっしょう	第3段階（両手）	
チューリップ	第3段階（両手）	
アマリリス	第3段階（両手）	
てをたたきましょう	第3段階（両手）	歌詞一部相違
むしのこえ	第3段階（両手）	
かねがなる	第3段階（両手）	
すいかのめいさんち	第3段階（両手）	
おおきなふるとけい	第3段階（両手）	
やまのおんがくか	第3段階（両手）	

以上から、著名な歌詞付きの楽曲は『ぴあのどリーむ』では第1段階中心に、『みんなのオルガン・ピアノの本』では第3段階中心に、『ピアノひけるよ！ジュニア』では各段階で平均して使用されていることが指摘できる。

## 4. まとめ

### (1) 長所と短所

これらの教本を教員養成、保育者養成で扱う際の長所としては、ピアノ初心者の躰きやすいへ音記号の読譜が、無理なく学習可能であること、そして著名な歌詞付きの楽曲が多く、ピアノの旋律と歌唱が一致していることがあげられる。また、教本を順に使用すれば、ピアノ演奏技術が突然レベルアップしたりすることなく、段階を踏んだ弾き歌い学習ができる点も、長所としてあげられよう。上記の理由から、教員養成、保育者養成においてこれらの教本を使用することは、歌唱とピアノとの融合した演奏を目指す上で有益であることが指摘できるであろう。

しかし、短所も若干見受けられる。教本により、著名な歌詞付きの楽曲に絞ると、曲数に偏りが出てくる点である。例えば『ぴあのどリーむ』では、歌詞付きの楽曲は第1段階に多く偏り、著名な歌詞付きの楽曲に絞ると、曲数が極端に減ってしまう。『新版 みんなのオルガン・ピアノの本』においても同様に、曲数の減少傾向が見受けられる。教本の編集者、もしくは出版社による作詞作曲の楽曲が多いことが、原因として考えられる。

歌詞が異なっている楽曲がやや多い点も、短所として指摘できる。そのまま使用すると、歌詞が異なることによって、学習者が混乱する恐れも出てくる。また、指番号記載がやや多い楽曲が見受けられる点も、問われるべきであろう。学習者が、音符そのものではなく指番号を読んで読譜する恐れがあるためである。そのため指導者がこれらの教材を選択する際は、注意して使用することが求められる。

さらに、すべての教本において、オリジナルとは違った調に移調されている楽曲があることも短所としてあげられよう。これらの楽曲をそのまま使用すると、子どもの声の音域には不適切であるからである。また、第1段階の楽曲も単旋律で伴奏がないため、実際の教育現場において、

このまま使用するのには難しいであろう。それゆえ、これらの教材はあくまで導入を図るため、実践には使用できない可能性が高いということを念頭においておく必要がある。

補足として、今回検討した段階まででは、まだピアノ演奏技術の面においては不十分である。例えば、十六分音符、三連符などはまだ取り上げられていない。これらの音価は子どもの歌で頻繁に使用されるため、それについてはこれらの教本を引き続き使用するか、子どもの歌を実際に弾き歌いしていく過程で学んでいく必要があるだろう。

## (2) 考察

以上を踏まえ、これらの教本にはそれぞれの特徴があることを指摘するに至った。そこで、指導者には教本それぞれの特徴を理解したうえで、その学習の目的や学習者の個性などに応じて、適宜教材を選択する技量が必要とされ、またそれに応じた指導方法を創意工夫する資質が求められているといえよう。

教員養成、保育者養成においてこれら歌詞付きの教本を使用することで、指導者は限られた時間で無理なく、段階を踏んだ指導が可能になり、学習者はピアノ演奏技術の向上が望め、同時に弾き歌い奏も段階を踏んで学習することができるであろう。そしてそれは、歌唱とピアノの融合した演奏を目指すことにつながり、融合した演奏により子どもは、人生初期の段階に必要な不可欠な調和しているという経験をすることができよう。

それゆえ、教員養成、保育者養成において学習者は、歌唱とピアノの融合を目指さなければならず、そのために特にピアノ初心者、初期段階から歌唱とピアノを同時に演奏する学習習慣を持つべきである。指導者、研究者には、今後、更なる可能性を探るべく、教本、教材を広く深く研究していくことが求められる。

## 注

- 1) ジェラルド・ムーア/大島正泰訳『伴奏者の発言』音楽之友社、1959年、p.9
- 2) 同上書、p.70
- 3) 井上和雄『シューベルトとシューマン』音楽之友社、2009年、p.118
- 4) 前掲：ムーア/大島、p.10
- 5) 西海聡子・依田洋子・今川規子・高田いちえ「保育者養成校における器楽（ピアノ）教育(2)」『宝仙学園短期大学紀要』33号、2008年3月、p.39
- 6) 同上
- 7) 榊田京子「小学校教員養成におけるピアノ教材についての一研究」『洗足論叢』第13号、1984年度、p.175
- 8) 加勢るり子『うたうピアノのパスポート』音楽之友社、2000年、p.65
- 9) 移動ポジションに入るまでは調についての説明はない。説明があった段階から備考欄に調を記載している。
- 10) 『新版 みんなのオルガン・ピアノの本1』p.55はp.54「かざぐるま」をポジション移動することによる移調の示唆のみのため、総曲数に含まない。『新版 みんなのオルガン・ピアノの本2』pp.14-15の「やまのぼり」には手の交差が出てくる。基本的に第2段階の固定ポジションであるが、本文3(1)③の理由により、これを第3段階に含めている。pp.52-53の「ハちょうちょうのれんしゅう」は、総曲数に含まない。また、調についての説明がなくても、調号が付いている場合は備考欄に調を記載した。逆に、調が明らかだが調号が付いていない場合は、備考欄に調を記載していない。また、調号でシャープ、フラットが使用されていても、曲中にシャープ、フラットが使用されていない場合は、臨時記号としては備考欄に記載していない。
- 11) 『ピアノひけるよ！ジュニア』では始めの説明の過程において「チューリップ」を使い黒鍵で楽曲の1部

を弾かせている。4分音符、2分音符、全音符を把握させるためであろう。従ってこの曲は総曲数に含めない。本論文では、階名付きの楽曲は歌詞付きの楽曲として含まなかった。調が明らかなが調号が付いていない場合、備考欄に調は記載していない。

## 参考資料

### 文献

- 井上和雄『シューベルトとシューマン』音楽之友社、2009年  
加勢るり子『うたうピアノのパスポート』音楽之友社、2000年  
西海聡子・依田洋子・今川規子・高田いちえ「保育者養成校における器楽（ピアノ）教育(2)」『宝仙学園短期大学紀要』33号、2008年3月、pp.37-50  
榊田京子「小学校教員養成におけるピアノ教材についての一研究」『洗足論叢』第13号、1984年度、pp.171-185  
ジェラルド・ムーア/大島正泰訳『伴奏者の発言』音楽之友社、1959年、原著 Gerald Moore, *The Unashamed Accompanist* (England, Ascherberg, Hopwood and Crew, 1944) の邦訳

### 楽譜

- 足羽章『日本童謡唱歌全集』パイン・プロデュース、1984年  
井上勝義『年齢別声域配慮版こどものうた 12 か月』ひかりのくに株式会社、2003年  
エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド/安川加寿子『メトロローズ・ピアノ教則本』音楽之友社、1951年  
教芸音楽研究グループ『歌はともだち指導用伴奏集 1-3 巻』教育芸術社、2003年  
小林美実『こどものうた 200』チャイルド本社、1975年  
小林美実『続こどものうた 200』チャイルド本社、1996年  
重嶋博『小学校音楽科指導法』教育芸術社、2000年  
高橋正夫『新版 みんなのオルガン・ピアノの本 1-4』ヤマハミュージックメディア、2015年  
田丸信明『びあのどリーむ 1-6』学習研究社、1993年  
長田暁二『日本叙情歌全集 1 巻』パイン・プロデュース、1986年  
フェルディナント・バイエル『全訳バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社、1955年  
橋本晃一『ピアノひけるよ！ジュニア 1-3』ドレミ楽譜出版、1998年  
『小学生の音楽 1-6 指導書伴奏編』教育芸術社